

所報発刊にあたって

田川郡教育研究所 所長 長野 修

新型コロナウイルス流行から3年が過ぎています。このような中、各学校におかれましては様々な対策を講じつつ教育活動を推進されていることに対しまして心から敬意を表します。3年もの間コロナ禍の制約を受け続ける子ども達だからこそ、より心のケアを考えつつ確かな学びの場を提供することが必要であると考えます。

田川郡教育研究所では、我が国や県の教育の動向を見据え田川郡の実情に即して、小・中学校の諸教育問題について研究し、田川郡教育の発展を目指しているところです。

昨年出された中央教育審議会答申では、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が示されました。その中では、～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ということが書かれています。これは、学ぶ側からの視点で捉え直されているということが重要です。これを実現するためには、教師自身の学びがさらに必要とされると考えられます。教師は、知識・技能の修得のみでなく、子ども達の個別最適な学びや協働的な学びに対応すべく伴走者としての役割も期待されています。

このような中、田川郡では、「ふくおか教育論文」において4年連続して「優秀賞」「優良賞」「佳作賞」などに入選する先生方が出ています。また、「田川郡教育論文」には、昨年度11本の応募がありました。先生方の学びの裾野も少しずつ広がってきていると感じられます。これも、在籍校の校長先生方をはじめ、指導いただいた先生方のお陰であると感謝しているところです。誠にありがとうございます。

結びに、当教育研究所では、今後とも学校や先生方が直面している教育課題の解決に向けて各事業を通じて貢献していく所存です。田川郡の教師が智慧を結集させて令和の田川郡教育を作っていくように頑張りましょう。どうぞ今後とも研究所へのご支援・ご協力をお願いいたします。

就任の挨拶

田川郡教育研究所 副所長兼幹事
川崎町立真崎小学校 校長 長尾 公仁

本年度から田川郡教育研究所副所長を拝命いたしました真崎小学校の長尾公仁です。

さて、どの学校におかれましても新型コロナウイルス感染症への対応に苦慮しながら、新しい形での教育活動の創造等に取り組まれていることと存じます。

本研究所も先生方の研修の充実に貢献できるようにするため、取組の充実を模索していきたいと思っておりますので、先生方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

就任の挨拶

田川郡教育研究所 副所長兼書記
福智町立赤池中学校 校長 春永 功次郎

コロナ禍になり3年目となりました。この2年間は学校行事の中止、縮減、見直しなど過去に例を見ない状況でした。しかし、コロナとの付き合い方も徐々にわかり、コロナ禍で見えた課題を克服するとともに新たな学びのあり方も見えてきました。そのような年に副所長を拝命させていただきました。研究所も新たな道を歩み始めます。田川郡の子ども達の輝きのため微力ながら精一杯支援させていただきます。

令和3年度教育論文応募者・入選者紹介

ふくおか教育論文

優良賞

大任町立今任小学校 教諭 木下 直哉

『自己を見つめ、道徳的実践意欲を高める道徳科学習指導』

※表彰につきましては新型コロナ感染対応のため次の通りになりました。

○令和3年度福岡県とびうめ教育表彰式で表彰されました。

(令和4年2月4日(金)県庁) ※会は中止になりました。

○令和3年度筑豊教育事務所「ふくおか教育論文」表彰式・発表会

(令和4年2月14日(月)筑豊教育事務所)

はオンラインでの開催になりました。

田川郡教育研究所教育論文

川崎町立池尻小学校 教諭 上村 勇広

(一般の部)

佳作賞

『意欲的に表現する児童の育成』

川崎町立池尻小学校 教諭 今井 悦子

(※現川崎小学校) (一般の部)

佳作賞

『意欲的に表現する児童の育成』

添田町立添田小学校 教諭 谷山 浩彬

(若年の部)

佳作賞

『主体的に粘り強く取り組む子どもを育成する第6学年体育科学習指導』

川崎町立真崎小学校 教諭 八隅 幸江・前川 莉乃

(一般の部)

『自ら考え表現し合う子どもの育成』

赤村立赤小学校 教諭 江藤 望

(一般の部)

『自分の気持ちや考えを伝える児童を育てる活動』

添田町立添田中学校 教諭 鎌田 季紗

(一般の部)

『理科の見方・考え方を働かせる生徒を育てる理科学習指導』

添田町立添田中学校 教諭 上田 佳苗

(一般の部)

『理論や根拠を明確にして自分の考えを表現する力を育てる第2学年国語科学習指導』

添田町立添田中学校 教諭 笥 由貴奈

(若年の部)

『第2学年被服分野における目的に応じた縫い方で製作できる家庭科学習』

添田町立添田中学校 教諭 長野 友希

(若年の部)

『第1学年歌唱分野における表現力を高める学習指導』

添田町立添田中学校 教諭 山根 美咲

(若年の部)

『自分の伝えたいことを英文で書く力の育成』

添田町立添田中学校 教諭 有本 貴皓

(若年の部)

『第2学年マット運動における技を滑らかに行わせる保健体育科学習指導』

※表彰につきましては、新型コロナ感染対応のため各学校にて行っていただきました。

学力向上実践校の紹介【小学校】

学力向上を図るための取組

糸田町立糸田小学校

1 学校教育目標

確かな学力と豊かな人間性をもち、たくましく未来を切り拓く児童の育成

2 経営目標（短期目標）

実践的指導力の向上を図る研修の充実と日常的な授業改善
（重点：C・D層に対応できる個別最適化を重視した授業づくり）

3 取組の概要

（1）主題研修の充実

- 研究主題を「思考力、判断力、表現力を高める学習指導」とし、「問いづくり」、「書く活動 Point 9」、「振り返り」を位置づけた授業づくりに取り組んでいる。
- 上記の3つに、本校がずっと取り組んできた志水メソッドの「〇つけ法」、「意味づけ復唱法」を加えた「糸田小授業スタンダード」を作成・活用している。
- 今年度は「C・D層の多面的な実態把握」、「授業チェックリストの活用」を重点とし、結果以上に学びのプロセスを価値づけることで、C・D層が主体的に学習に取り組む姿の実現を目指している。

（2）学力の基盤づくりの取組

- 本校は、昨年度より「読む」「書く」「補充」の3本柱で学力向上を目指している。これらの取組を学校全体で共有化し、どの学級でも学力の基盤づくりを行っている。
- 「読む」の取組として、「1分間速読（音読）」と「一日一読五分間読書」を行っている。
「1分間速読（音読）」では、国語や算数を中心に、繰り返し同じ部分を読んで記録することで、読める量の高まりを実感することができるようにしている。
「一日一読五分間読書」では、児童机の横に読書バックを準備し、学習中の隙間時間や休み時間等にすぐに本が取り出して読めるような環境づくりをし、読書を推奨している。
- 「書く」の取組として、上記の主題研修に全職員で取り組んでいる。全学級で公開授業研究会に取り組み、事前研や公開授業、事後研を通して実践的指導力の向上を目指している。
- 「補充」の取組として、「重点単元補充」「学期末補充」「低学年補充」「希望補充」を行っている。
「重点単元補充」では、昨年度の各種学力調査の結果を基に、各学年2つの重点単元（算数科）を設定し、その学習の際に複数体制で指導できる体制をとっている。
「学期末補充」では、各学期末に、その学期で学習したことを定着させるために、4人体制で各学級に入り込んで〇つけや指導を行う体制をとっている。
「低学年補充」では、基本的な読み、書き、計算を確実にできるようにするために、毎週火、水、木曜日の6校時を「パワーアップタイム」と設定し、3～4名体制で補充プリントの〇つけや指導を行う体制をとっている。
「希望補充」では、毎週補充希望調査を行い、上記の3つの補充時間以外にも、希望に応じて複数体制での学習ができるような体制をとっている。

学力向上実践校の紹介【中学校】

学力向上を図るための取組

糸田町立糸田中学校

学校教育目標

「意欲的に学び、共に高め合う、粘り強い生徒の育成」

1 本年度の研究主題

『主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり』
～糸田中スタンダードの取組を通して～

2 取り組みの概要

(1) 主題研修の充実

○ 糸田中スタンダードの実践

主体的・対話的で深い学び実現することができるように、授業づくりの視点を明確にした学習指導の基本形に基づいた、「問いづくり」と「書く活動」を効果的に組み合わせた授業の実践を行う。

○ 日常的な実践方法

(1) 日常的な授業（ア～ウのいずれか、またはいくつかを意識して取り組む）

ア 導入で「問いづくり」を意識した活動や手立てを設定する。

イ 展開で「書く活動」を意識した活動や手立てを設定する。

ウ 終末で「書く活動」を意識した活動や手立てを設定する。→「書く活動Point9」の活用

(2) 学期に一度程度の公開授業

1単位時間に「問いづくり」と「書く活動」を意識した活動や手立てを設定する。

(2) 客観的な評価による授業改善

○ 「思考力・判断力・表現力を問う問題」の作成

・ 単元テスト・定期考査で糸田中スタンダードの実践結果から、思考力・判断力・表現力を問う問題を作成し、生徒の定着度を考察する。

・ 毎学期の生徒授業アンケートにおいて、糸田中スタンダードが日常的に実践されているかを検証する質問項目を取り入れ、教師それぞれの回答結果を分析することで日常的な授業改善を図る。

3 ICT教材を活用した効果的な授業の実践

○ タブレットドリル

Eライブラリーを全教科導入している。授業の導入場面で復習問題に取り組ませたり、終末で応用問題に活用するなど、積極的に取り入れている。今後は家庭学習でも活用できるような取り組みを小中連携を図りながら進めていきたい。

4 学力向上対策委員会の活性化と町内連携

○ CD層に向けた学習指導

学力向上対策委員会において、学力検査後の分析結果（四分位層区分表、成果や課題）などについて、学年ごとに情報共有を行い、習熟度別授業におけるターゲットを絞った授業実践を行う。

○ 「未来への一歩」「未来への挑戦」等の計画的な実践

学力向上対策委員会を中心に実施計画を作成・提示し、全学年で計画的に取り組む。

○ 家庭学習の推進

小中連携を図り、年3回の定期考査において、学習計画表を活用した小中学校が連携した家庭学習の取組強調週間を実践し、家庭学習の充実と習慣化を図る取組を実践する。

長期研修を終えて

福智町立金田義務教育学校 教諭 中野 弦己

昨年度、福岡教育大学附属小倉小学校において国語科の長期派遣研修員として1年間研修させていただきました。主題研究では、楽しみながら、場面の様子を豊かに読む子どもを育てることができるよう、問いを見いだして繰り返し物語を読みたくなるような単元構想や、想像を広げる交流活動の支援の在り方などについて学ばせていただきました。

研修の中では、そもそも国語科における「読む」とはどのような姿なのか、「楽しむ」とはどのような姿なのか、また、「問い」とは何なのか、何度も悩み考えました。失敗続きの毎日でしたが年間4回の実践を通して、多くの先生方からのご指導、ご助言をいただき、少しずつ目指す子どもの姿が明確になってきました。

子ども自らが「解決したい。」という思いをもつことができるように、子どもの生活に種を蒔き、教材や言語活動との合わせ方を工夫すること、教師のねらいと子どもの興味・関心が一致するような単元を構想すること、そして、授業中の子どもの表情、発言やつぶやきを丁寧に見取った上で、思考に沿った発問をすることなど、どれも教科の本質に迫るために必要なことを学ぶことができたと考えています。

しかし、理想とする国語科の授業に至るまでには、まだまだ課題が山積みです。ようやく研究のスタートラインにたったばかりだと感じています。今後も、この長期派遣研修で学んだ研究内容を糧にしながら日々の実践に励み、田川の子どものために尽力していきたいと考えます。

このような貴重な研修の機会を与えてくださいました関係機関の方々や、私の実践に対してご指導くださった多くの先生方に厚くお礼を申し上げます。1年間ありがとうございました。



教育実践研究に関する研修会参加者

筑豊地区教育研究所等連絡協議会主催

谷山 浩彬	(添田小)	「体育」
西本 直	(伊方小)	「社会」
西村 奏音	(市場小)	「生活」
坂本 彬行	(弁城小)	「算数」
吉田 賢治	(糸田小)	「算数」



指導技術講座参加者

筑豊地区教育研究所等連絡協議会後援

西部 百恵	(赤 小)
横畑 翔吾	(赤 小)
大石 京佳	(添田小)
神馬 誠吾	(落合小)
宮本 真希	(真木小)
前川 莉乃	(真崎小)
西村 奏音	(市場小)



令和4年度 教育実践発表会等についてのお知らせ

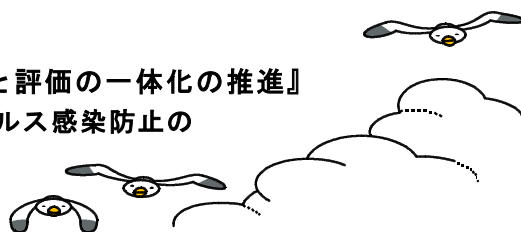
◆筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会

○実践発表者 福田 和憲 (福智町立方城中学校)

主題『思考力・判断力・表現力を育成するための指導と評価の一体化の推進』

※8月に行われる予定のこの研修会は、新型コロナウイルス感染防止の

観点から、書面開催になりました。



◆福岡県教育研究所連盟研究発表協議会

○実践報告者 木下 直哉 (大任町立今任小学校)

主題『自己を見つめ、道徳的実践意欲を高める道徳科学習指導』



※例年11月に行われているこの研究発表協議会は新型コロナウイルス感染者防止の観点から書面開催になりました。

食育だより

添田町立添田小学校 栄養教諭 井手口裕子

昨今の食品の大幅な値上げにより、給食の食料費にも大きな影響が出ています。栄養教諭等は、栄養価を維持したおいしい給食を提供するため、最大限の努力をしています。

さて、本年度、田川郡学校給食会では、調理員対象の研修会として、衛生管理研修会と調理技術講習会を予定しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町村単位での実施となりますが、各施設の課題解決に役立つような会にしたいと考えています。また、**研究指定・委嘱研究発表会を10月28日に赤村立赤中学校で行います。**研究テーマを「食に関心をもち、自らの食生活をより良くする生徒の育成」として2年間研究した成果を発表します。先生方の参加をお待ちしています。

本年度も、安全で楽しい給食時間にするために、各学校で取り組んでいきましょう。

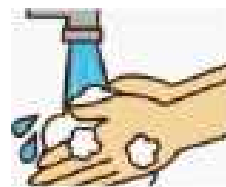


養護だより

大任町立大任小学校 養護教諭 朝比奈真弓

田川郡学校保健会養護部会では、新型コロナウイルス感染症状況も3年目を迎え、少しずつコロナと共に生活していくという方向性で世の中が動き出している中、自分たちの活動も昨年度より一歩進めていくことができると思っています。

例年であれば年に2回の研修会と研修視察を行っていましたが、今年度は秋頃に感染状況を見ながら、また十分に感染対策をしながら全体での研修会を計画している所です。若い先生方が増えてきたこともあり、現場での実践につなげられるような研修内容を検討中です。また職種柄一人で判断しなければならいことも多く、学校間のとりくみの交流や各部毎にテーマを設定し、定期的な研修を継続して行い、さらなる資質の向上に努めていきたいと思っております。



田川郡教育研究所

[所在地] 〒 825-0002
田川市伊田松原通り 3292-2 田川総合庁舎 筑豊教育事務所田川駐在内
[TEL・FAX] 0947-47-1081
[E-mail] tagawa-lab@fukuoka.email.ne.jp
[URL] http://tagawa-lab.sakura.ne.jp/

所長	長野 修	副所長	春永功次郎 (赤池中学校 校長)
副所長	長尾 公仁 (真崎小学校 校長)	書記	〃
幹事	〃	主任指導員	平田 隆司 (赤中学校 教頭)
主任指導員	中山 博紀 (添田小学校 教頭)	指導員	奥 拓也 (川崎東小学校 主幹教諭)
指導員	山口由一郎 (今任小学校 主幹教諭)		
指導員	石打 史尚 (方城中学校 主幹教諭)		